

水田たより 10月号

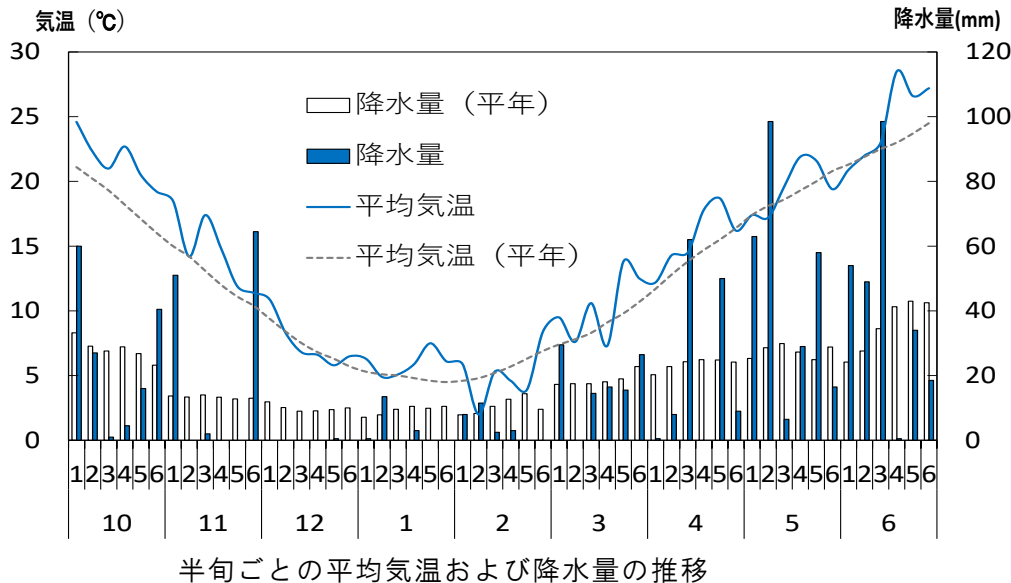
令和7年10月1日

JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

麦

令和7年産麦の振り返り



管内の平均単収 (kg/10a)

品種	R7年産	R6年産
さとのそら	401	242
あやひかり	283	186
計	326	206

湿害被害が目立った R6 年産より単収が大きく増加しました。

- ・ 気温は概ね平年並みから高めに推移しました。
- ・ 12～2月 は降水量が少なく生育が停滞しました。3～4月 は降雨を受け生育が進んだものの、分けつ総数は平年より少なくなりました。一方で有効分けつの割合は高く、穂数が確保されました。5月 は平年の 1.5 倍以上の降水量があったため、一部では湿害の発生が見られました。
- ・ 積極的な追肥や土づくり、排水対策の取組みもあり、過去 10 年で 3 番目の高単収となりました。

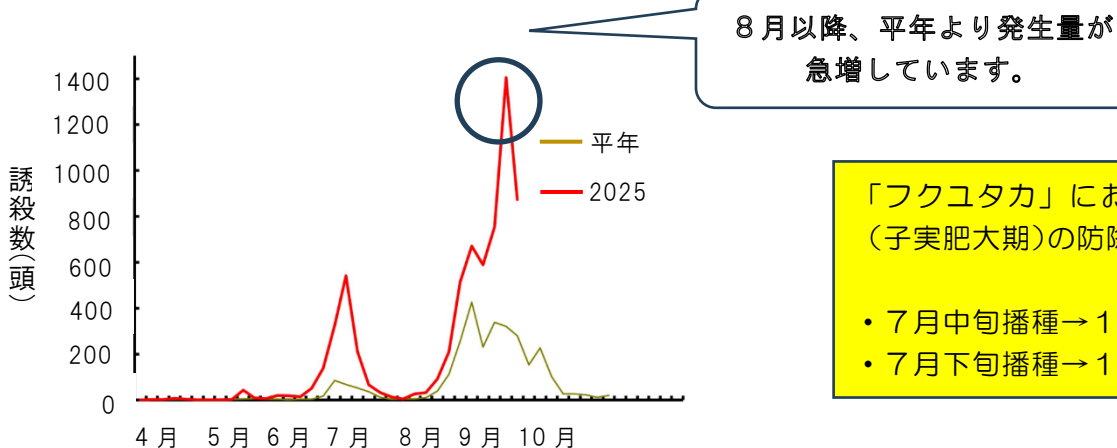
大豆

吸実性カメムシ類の2回目防除の実施を！

予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺数（三重県病害虫防除所発表、調査場所：松阪市嬉野川北町）は平年より多い状況です。

被害を防ぐため、防除は1回のみならず2回目（開花40日後、子実肥大期）も実施しましょう。耕作者同士で声をかけ合うなどして地域で一斉防除すると、発生密度の低減に効果的です。

また、薬剤抵抗性発達の回避のため、1回目防除（開花20日後）とは異なる成分の農薬をローテーション使用してください。



「フクユタカ」における2回目（子実肥大期）の防除時期の目安

- ・ 7月中旬播種→10月上旬
- ・ 7月下旬播種→10月中旬

ミナミアオカメムシの発消長
(9月20日時点 三重県病害虫防除所)

麦類の収量・品質向上を目指すには、適期播種が重要です。計画的に播種作業を進めましょう。

播種適期

- ・ファイバースノウ、あやひかり：11月上旬～11月下旬
- ・さとのそら：11月中旬～11月下旬

播種が適期より早い場合

- ・春先に凍霜害を受けやすくなります。
- ・過繁茂になり、倒伏や病害が発生しやすくなります。

播種が適期より遅い場合

- ・茎数が十分に確保できず、収量が低下します。
- ・成熟が遅れ、粒の充実が悪くなります。

播種時期が遅くなる場合は、播種量を増やして茎数を確保します。

播種時期	11月			12月	
	上	中	下	上	中
播種量(kg/10a)	8			10	11

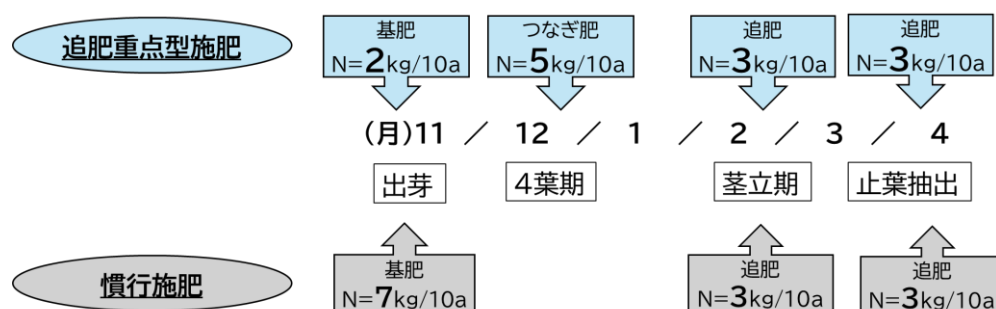
追肥の重要性

小麦は栽培期間が長く、肥料切れを起こしやすいです。そのため、追肥により肥料切れを防ぐことが重要です。特に、近年では暖冬により生育が早く進み、生育後半で肥料切れする恐れがあります。

また、湿害で根がダメージを受けると、必要な養分を十分に吸い上げられなくなります。そのため、水が引いたら速やかに追肥を行うことで、生育の回復を助けることが重要です。

追肥重点型施肥

計画的な施肥体系として、基肥施用量を減らし追肥施用量を増やす、追肥重点型施肥があります。窒素吸収量が大きくなる茎立期以降の肥効を高めることで、生育後半まで高い葉色を維持し、有効茎歩合が増加することが報告されています。



桑名普及センターでは、基肥を減らし、追肥の緩効性肥料を増施用する施肥体系を検証しました。結果、「追肥重点型」施肥区では、生育後半まで葉色が高く維持され、有効茎歩合が増加し、精麦重が増加しました。

<令和7年産小麦 追肥重点型施肥試験結果>

	施肥量[kg/10a]		葉色値 (SPAD 値)			有効茎歩合 [%]	精麦重 [kg/10a]
	基肥	追肥 (2月)	2月中旬	3月中旬	4月中旬		
追肥重点型	N=9.9	N=6	38.5	42.6	42.6	73.0	386.1
基肥重点型	N=13.8	N=2	38.2	41.0	39	62.4	358.1

※肥料はいずれも緩効性を使用

過去の水田たよりは桑名地域農業改良普及センターのホームページでご確認いただけます。「桑名普及」でご検索ください。



桑名普及

検索